



令和2年9月13日(日)、総合教育センター善行庁舎において、午前中にチャレンジコースの受講者対象の特別講座1、午後に第3回かながわ教育学講座が開催されました。

第3回 かながわ教育学講座

講義「コミュニケーション能力の育成」

<ねらい>社会人として求められるコミュニケーション能力の基本を理解する。

今回は、講師にコアネット教育総合研究所の福本雅俊氏を招き、「コミュニケーション能力の育成」について講義がありました。コミュニケーションの大切さを体験するため、ソーシャル・ディスタンスの確保等、新型コロナウイルス感染予防に細心の注意を払いながら、受講者同士が近くの座席の人とペア(またはグループ)を組んで対話をする場面が多く見られました。本日の講義内容は次の4点でした。

本日の講義内容

- 1 コミュニケーション能力って？
- 2 なぜコミュニケーション能力が課題になる？
- 3 学校におけるコミュニケーション
- 4 対児童・生徒のコミュニケーションにおけるポイント

テーマ1では「コミュニケーション能力が高い人とはどのような人をイメージしますか？」というテーマで対話の演習をしました。「話がうまい人」「みんなの輪の中心にいる人」などお互いのイメージを伝え合いました。福本氏からは、「コミュニケーションは話す側と聞く側の双方の協働作業によって成り立つものであり、目の前にいる児童・生徒とともに意思や思いを伝え合い、感じ合うことである。いくらうまい話し方であっても、それが一方的であれば、必ずしもそれはコミュニケーション能力が高いこととイコールではない」というお話がありました。受講者の皆さんも本日のキーワードである「コミュニケーション能力」について改めて考えることができたのではないのでしょうか。

テーマ4では児童・生徒への関わり方は大きく「ティーチング」「メンタリング」「コーチング」の3つに分類することができるというお話がありました。教員として、生徒に教えなければという思いから、つい「ティーチング」と「メンタリング」が多くなりがちですが、「コーチング」を大事にしてほしいという熱いメッセージも伝えられました。コーチングの代表的なスキルである「傾聴」について、「最近印象に残ったこと」というテーマに沿って、相手に話を聴いてもらえる時と無視されてしまう時の感じ方の違いを体験しました。話を聞いてもらえずに苦笑いする受講者の姿も見られ、表情豊かに気持ちを込めて相手に寄り添うことの大切さを実感しながら学んだ演習となりました。



コアネット教育総合研究所
福本雅俊氏

関わり方	児童・生徒	教員	特徴
①ティーチング	聞く	話す	一方通行型コミュニケーション
②メンタリング	聞く	話す	協働型コミュニケーション
③コーチング	話す	聞く	支援型コミュニケーション



グループ活動

<ねらい>子どもとのコミュニケーションにおいて、教員として大切なことは何かを考える。



今回のグループ活動は、次の流れで行いました。

子どもとコミュニケーションが上手いっている教員の姿をイメージして各自でまとめる。



そこから教員として目指すべき姿を考え、班で共有する。



班で一つ、目指すべき姿を決めて、それに向けてどのように取り組んでいくのか、模造紙に付せんを貼ってまとめる。



発表



今回の班別協議は2回目ですが、講義で学んだことを早速実践し、相手の話を丁寧に受け止めながら話し合っていました。自分が過去にお世話になった先生を思い浮かべながら、それぞれの目指すべき姿について熱い思いを伝え合っている受講者もいました。「話を否定しないで聞いてくれる先生」「話を最後まで聞いてくれる先生」など、前半の講義に出てきた「コーチング」を踏まえた意見を挙げる班も多く見られました。

本日は、大講堂の前に前回作成した模造紙を掲示しておきました。グループ活動はそれぞれ別の研修室で行っているため、他のグループの様子を見ることはできませんが、対話の内容や模造紙のまとめ方などについて互いに刺激を受ける良い機会になったのではないのでしょうか。グループ活動終了後、集まった模造紙を見た

グループ担当者からは「まとめ方がうまくなっているね」という声が上がっていました。

また、グループのメンバーが円になって発表を見守る様子や、うなずきながら聞く姿が見られ、協議を含めグループ活動全体に連帯感が見られるようになってきました。今回の教育学講座を生かして、次回は話し合ったことを「伝える」ことにも意識を向けながら教員への意欲や教職への理解を深めていってほしいと思います。

